

アニバーサリープロジェクト ごすけさほうえんてい ～五助砂防堰堤の完成から60年～

H29.7.29

～近畿地方整備局 六甲砂防事務所～

国土交通省は、完成から一定期間経過した堤防やダム・放水路、砂防堰堤などの治水施設について、地域の方々との生い立ちを振り返り、その果たしてきた役割や地域の水害・土砂災害リスクについて再認識していただくための「アニバーサリープロジェクト」を推進しています。今回、完成から60年を迎えた「五助砂防堰堤」について『昭和42年豪雨災害から50年講演会』のパネル展に合わせて展示し、説明を行いました。

概要

日時：平成29年 7月29日（土）
13時00分～16時00分
場所：兵庫県看護協会「ハーモニーホール」（神戸市中央区）
主催：六甲砂防事務所、兵庫県、神戸市、西宮市、芦屋市、宝塚市
共催：昭和42年六甲山系豪雨災害50年行事実行委員会
参加者：行政機関、地域住民ら約450名が参加



展示会場

六甲山麓地域に激甚な被害をもたらした昭和42年豪雨災害から50年の節目を迎えることを契機に開催した講演会では、会場内で災害時の写真や、事業概要説明のパネル展を行いました。その中で、完成後60年となる「五助砂防堰堤」のパネルの展示・説明を行い、多くの方に興味をもっていただけました。

講演会開催状況



講演会の様子



講演：土砂災害から命を守るしくみの構築
沖村 孝
(神戸大学名誉教授)

講演：災害を忘れない
三上喜美男
(神戸新聞論説委員長)

50th Anniversary project 五助砂防堰堤 竣工60年!!

五助砂防堰堤の竣工状況

空から見た五助砂防堰堤

美しい石積の表立面

五助砂防堰堤（登録有形文化財）

災害前 災害後

昭和42年7月豪雨では、五助砂防堰堤の上流から約12万m³の土石流が押し寄せました。しかし、五助砂防堰堤がこれをくい止め、下流の被害を防止しました。

所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町3-13-15
建設年度	昭和27年
構造	重力式コンクリート堰堤
延長	約 300m
高さ	約 30m
面積	約 100ha
管理	近畿地方整備局 六甲砂防事務所

パネル展開催状況



職員による事業効果の説明



「アビ-サリープロジェクト」パネルの展示状況

□見学者の感想□

- ・自分の自宅近くで、こんな大きな災害があったなんて、とても驚いた。
- ・防災意識を高めていかなくてはと改めて感じた。
- ・防災を考えるいい機会になった。

六甲山系では、昭和13年の阪神大水害を契機として、国による砂防事業に着手しました。

五助砂防堰堤は、昭和27年に工事に着手し、昭和32年に完成した高さ30m、幅78mを誇り六甲山系では最大規模の砂防堰堤です。

昭和42年の豪雨で発生した約12万m³の土石流をくい止め、砂防堰堤の効果を発揮し、下流の被害を防止しました。

また、表面には化粧積石を用いており、平成26年に「登録有形文化財」に登録されました。

【お問合せ先】

国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所 調査課

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15

TEL：078-851-0535

